

平成 28 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査



かけがわの子どもたち



掛川市教育委員会

掛川市では、『教育大綱かけがわ』の中で、子どもたちの目指す姿の一つとして「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」とし、健康教育と体力・たくましさの育成に重点を置いています。

本年度実施した全国体力・運動能力、運動習慣等調査について、掛川市の集計結果をお知らせします。全国平均・県平均を 100 とし、指標値により示しました。



実技に関する調査結果

【小学校5年男子】

※持久走と 50m 走については、タイムの速い方が良い結果であるため、数値を逆にして計算しています。

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	100	99	98	103	110	100	100	106	102
県比較	101	99	102	102	107	100	99	111	102

【小学校5年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	シャトルラン	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	99	97	98	103	105	100	101	109	101
県比較	100	97	100	102	99	99	100	106	100

【中学校2年男子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	95	103	106	103	103	102	100	101	102
県比較	96	101	104	101	101	101	98	99	101

【中学校2年女子】

	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横跳び	持久走	50m 走	立ち幅とび	ボール投げ	体力合計点
全国比較	99	105	102	102	103	101	103	104	104
県比較	99	103	99	100	100	100	99	100	100



調査結果全体から見てきたこと

- 運動能力の4／5種目（反復横跳び、シャトルラン（持久走）、立ち幅跳び、ボール投げ）において、小5・中2ともに男女どちらも全国平均を上回っており、掛川市内の子どもたちの運動能力は全体的に見て高い（3年連続）。
- 掛川市では、県で課題とされているボール投げの結果において、小5、中2の男女ともに全国平均を上回った（3年連続）。
- 児童生徒に対する質問紙調査では、「中学校に進んだら（中学校卒業後）、自主的に運動やスポーツの時間をもちたいと思う」と答えた児童生徒の割合が、小5、中2の男女すべてで全国や県を上回っており、運動することを大切だと考えている子どもが多い。
- 一週間の総運動時間（月～日）は、小5男女、中2男は全国や県を上回っている。中2女子も全国は上回っている。掛川市の子どもたちは、日常的に運動する習慣があると考えられる。
- 「体育（保健体育）の授業が楽しい・やや楽しい」と答えた児童・生徒の割合が、小5、中2の男女すべて全国を上回った。特に小5の男女は全体の90%を超えていた。掛川市では、子どもたちにとって体育（保健体育）の授業が充実したものになっている（2年連続）。
- △「握力」において、小5女と中2男女で全国・県の平均値に届かなかった。
- △「上体起こし」において、小5の男女ともに全国・県の平均値に届かなかった。

よくできました

体力の高い子 かけがわの法則

「実技に関する調査」と「質問紙調査」の相関関係を分析すると、次のような子どもの体力合計点が高い傾向にあります。

- ①運動が好き・大切である（小学校5年男女、中学校2年男女）。
- ②毎日決まった時間に朝食・夕食を食べる（小学校5年男女）。
- ③平日のテレビやビデオ・DVDの視聴時間が1時間未満（中学校2年男女）。
- ④保健体育の授業で、振り返る活動を行っている（中学校2年男女）。
- ⑤体育の授業で、友達と助け合ったり、話合ったりするような活動を行っている（小学校5年男女）。
- ⑥失敗を恐れずに挑戦する（小学校5年男女、中学校2年男女）。



今後に向けて

掛川市の子どもたちは、例年と同じく運動好きな子どもが多く、運動時間も確保されて、運動能力も高い結果となりました。今後も、運動能力の向上に努めるとともに、筋力や柔軟性にも対応できるように、まずは、幼稚園ですすめているアクティブチャイルドプログラムを継続して小学校低学年ですすめ、家庭も巻き込んで取り組んでいきます。さらに、小学校中・高学年では多様な遊びや運動を取り入れ、中学校では筋力トレーニングのような補強運動を継続的に行い、発達段階に応じた指導の充実を努め、小学校は中学校へ、中学校は高校（社会）へと筋力や柔軟性の向上につなげていくため、それぞれの段階で確実に体力づくりをし、次のステップへつなげていきます。今後も、地域の特色や子どもたちのニーズに合わせた効果的な取組を推進し、子どもたちが自主的に「豊かな心や健やかな体に高めていくひと」を目指せるよう、健康教育と体力・たくましさの育成に力を注いでいきます。